

農繁期 レポート

令和8年 6月号

ニールファーム

オーナー	株式会社G-7新流
産地	三重県伊賀地区
水田面積	9.0アール
保証量	玄米252kg
形態品種	コシヒカリ(有機JAS認証)



生産者 (株)ツークライフ農園:北出 茂樹さん

お世話になっております。田植えから約1か月が経過いたしました。日頃より当地区の米づくりに温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

現在、稲は全体として順調に生育しておりますが、ほ場によって分けつの進み具合に差が見られます。通常は3本植えの苗がこの時期には25本前後まで分けつしますが、今年は肌寒い日や日照不足の影響により、生育にばらつきが生じています。

一方で、田植え直後に懸念していた水不足は解消しており、全体としては順調に推移しております。今後も気象状況を注視しながら、適切な水管理・生育管理に努めてまいります。

また、一部のほ場(オーナー様も含む約35a)では、カラスによる鳥害で苗が抜き取られる被害が発生したため、補植・植え直しを実施いたしました。現在は回復傾向にあり、生育への影響は限定的と見込んでおります。※鳥害が発生した合計約35aは、サッカー場の半分程度の広さです。

6月の作業内容等

1.分けつ

イネ科植物に見られる現象で、1本の苗から複数の茎が新たに生えてくることをいいます。分けつによって増えた茎の数が将来の穂数につながるため、収量を左右する重要な生育過程です。



適度に分けつした状態

2.除草作業

ヒエやネコジャラシなどのイネ科雑草も、稲と同様に分けつします。そのため、初期の発生本数が少なくても成長とともに急激に増え、多くの種子を残してしまいます。雑草の繁殖を防ぐため、種子ができる前に根元から刈り取ることが重要です。



田んぼ内側の除草作業

3.中干し

過剰な分けつを抑え、丈夫な稲を育てるために、一時的に田んぼの水を抜く作業です。土の中に空気を入れることで根の活力を高め、有害ガス(硫化水素やメタン)の排出にもつながります。田面に軽くひび割れが入る程度が適切な状態です。



適度の中干が済んだ様子

4.水管理

稲の生育段階に応じて、水深を細かく調整する重要な管理作業です。6月上旬から中旬にかけては浅水管理によって分けつを促し、その後は中干しを行うなど、生育状況や天候に合わせた調整を行います。

